

感染症発生動向調査 週間コメント

《疾病別 推移グラフ》

第27週 (R3.7.5～R3.7.11)

■今週のトピックス

今週(2021年第27週:7/5-7/11)は夏に多発する手足口病、ヘルパンギーナが今週も若干増加、RSウイルス感染症は連続減少しています。感染性胃腸炎は増加し、細菌とともにノロウイルスの報告も続いています。緊急事態宣言を4/25に3回目の発令、5/12に福岡県も指定、5/23に沖縄県等計10都道府県を指定、6/21に沖縄県以外は解除されたが7/12に東京都に4回目発令(東京都・沖縄県)。まん延防止等重点措置をR3.4/5に初適応、その後追加・中止・変更あり6/21に緊急事態宣言から福岡県等7都道府県が移行し計10都道府県、7/12に変更あり福岡県は除かれ、大阪府・神奈川県・埼玉県・千葉県の一部地区に適応された。

病 名	定点報告 数	前週比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	0	±0		0.00	0.00
RSウイルス感染症	208	80%	北九州114、福岡59	1.73	4.13
咽頭結膜熱	100	70%	福岡79、筑後10	0.83	0.36
A群溶連菌咽頭炎	239	94%	福岡158、筑後67	1.99	0.58
感染性胃腸炎	702	110%	福岡346、北九州176	5.85	3.14
水 痘	24	+10	北九州9、福岡9	0.20	0.10
手足口病	36	+11	筑後24、福岡10	0.30	0.13
伝染性紅斑	1	±0	福岡1	0.01	0.01
突発性発しん	72	85%	福岡34、筑後16	0.58	0.42
ヘルパンギーナ	27	+8	福岡16、筑後8	0.23	0.16
流行性耳下腺炎	16	+6	福岡11、北九州4	0.13	0.06
川崎病(MCLS)	3	-1	筑後1、北九州1	0.03	
マイコプラズマ肺炎	1	-3	福岡1	0.01	0.04
クラミジア肺炎	0	±0		0.00	
細菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.01
無菌性髄膜炎	0	-1		0.00	0.02
急性脳炎	0	±0		0.00	
急性出血性結膜炎	0	±0		0.00	0.00
流行性角結膜炎	7	-1	筑後4、福岡2	0.27	0.20
性器クラミジア感染症	27	+7	北九州9、筑後7	0.73	
性器ヘルペス	13	+11	福岡7、筑後3	0.35	
尖圭コンジローマ	5	+3	福岡3、筑後2	0.14	
淋菌感染症	14	+5	北九州6、福岡6	0.38	

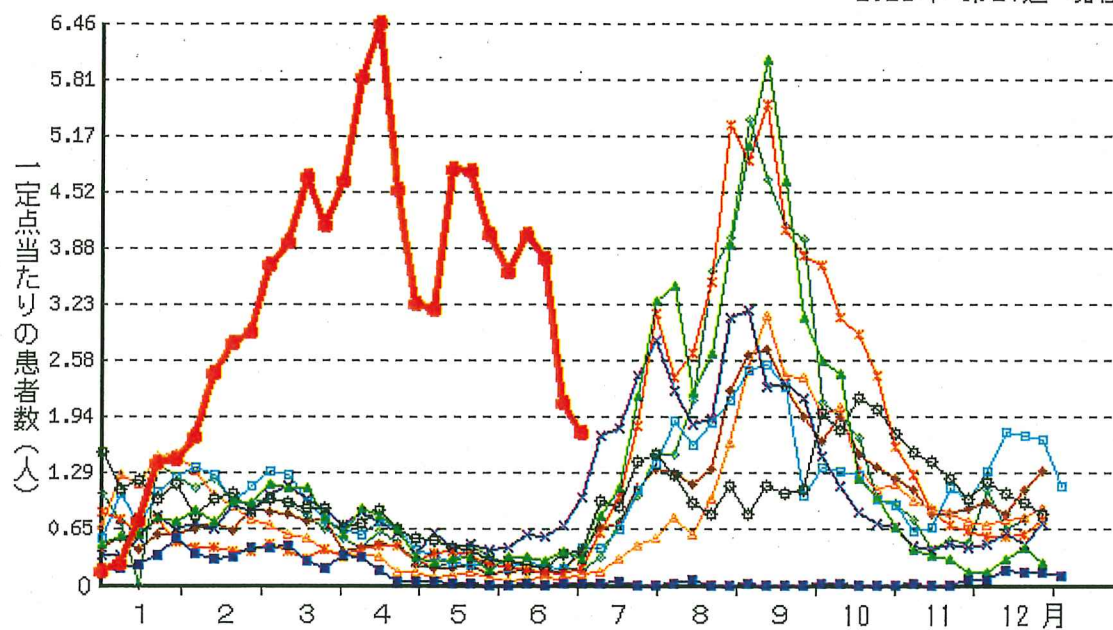
※ 全数報告疾病 26週(定点報告数は27週分)

病 名	定点報告 数	全数報告 数(累計)	主な報告地区等	全国報告数(累計)
百日咳	0	2(19)	北九州1、福岡1	20(322)
風しん	0	0(0)		0(7)
麻疹	0	0(1)		0(2)
梅 毒	2	5(153)	福岡3、筑後2	73(3298)

全国情報は令和3年26週分です。全国情報ではマイコプラズマ肺炎20、クラミジア肺炎0例。令和3年26週までの累計は、急性灰白髄炎0、結核7750(県内407)、新型コロナウイルス580(今週1、県内0)、コレラ0、細菌性赤痢4(県内0)、腸管出血性大腸菌感染症937(今週94、県内今週6、計59)、腸チフス0(県内0)、パラチフス0、E型肝炎264、A型肝炎37(今週0、県内1)、オウム病4、ジカウイルス感染症0、SFTS64(県内0)、チクングニア熱0、つつが虫病119、デング熱0(県内0)、日本紅斑熱164、急性弛緩性麻痺9(今週1、県内0)、日本脳炎0(県内0)、マラリア5(県内0)、レジオネラ症723、アメーバ赤痢269、ウイルス性肝炎96(県内3)、急性脳炎165(県内12)、クロイツフェルト・ヤコブ病83、劇症型溶連菌感染症317(県内15)、後天性免疫不全症候群504(県内36)、侵襲性インフルエンザ菌感染症113(県内9)、侵襲性髄膜炎菌感染症1、侵襲性肺炎球菌感染症724(県内44)、水痘(入院)131(県内6)、先天性風しん症候群1。1類感染症の報告はない。

■RSウイルス感染症（福岡県全域）

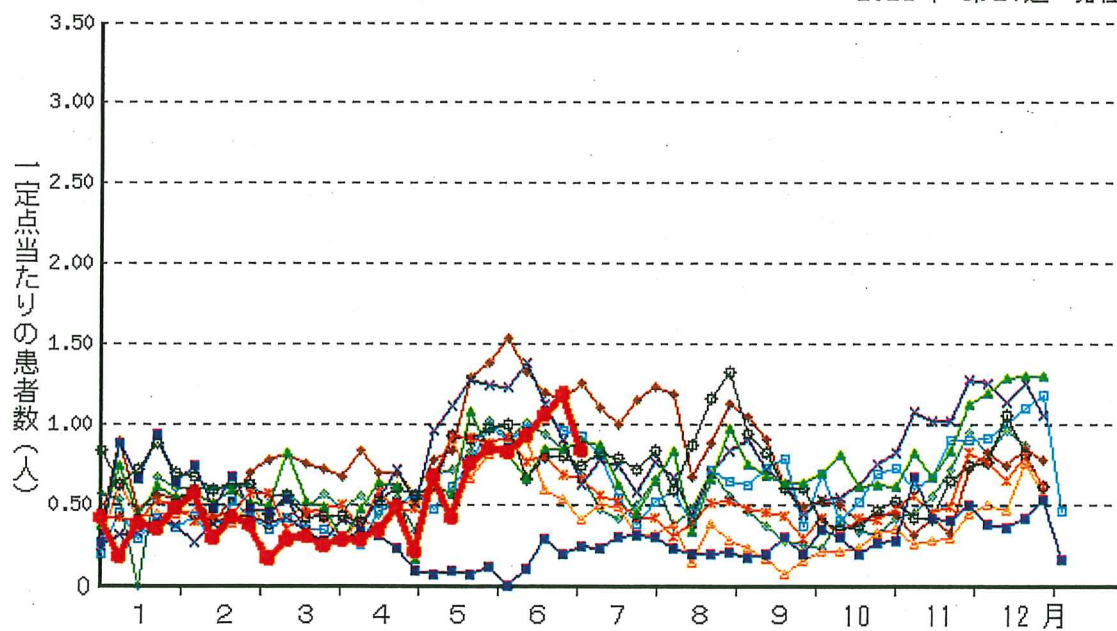
2021年 第27週 現在



- :2021 年
- :2020 年
- ▲:2019 年
- ×:2018 年
- ✱:2017 年
- ◇:2016 年
- :2015 年
- :2014 年
- ◇:2013 年
- ◇:2012 年

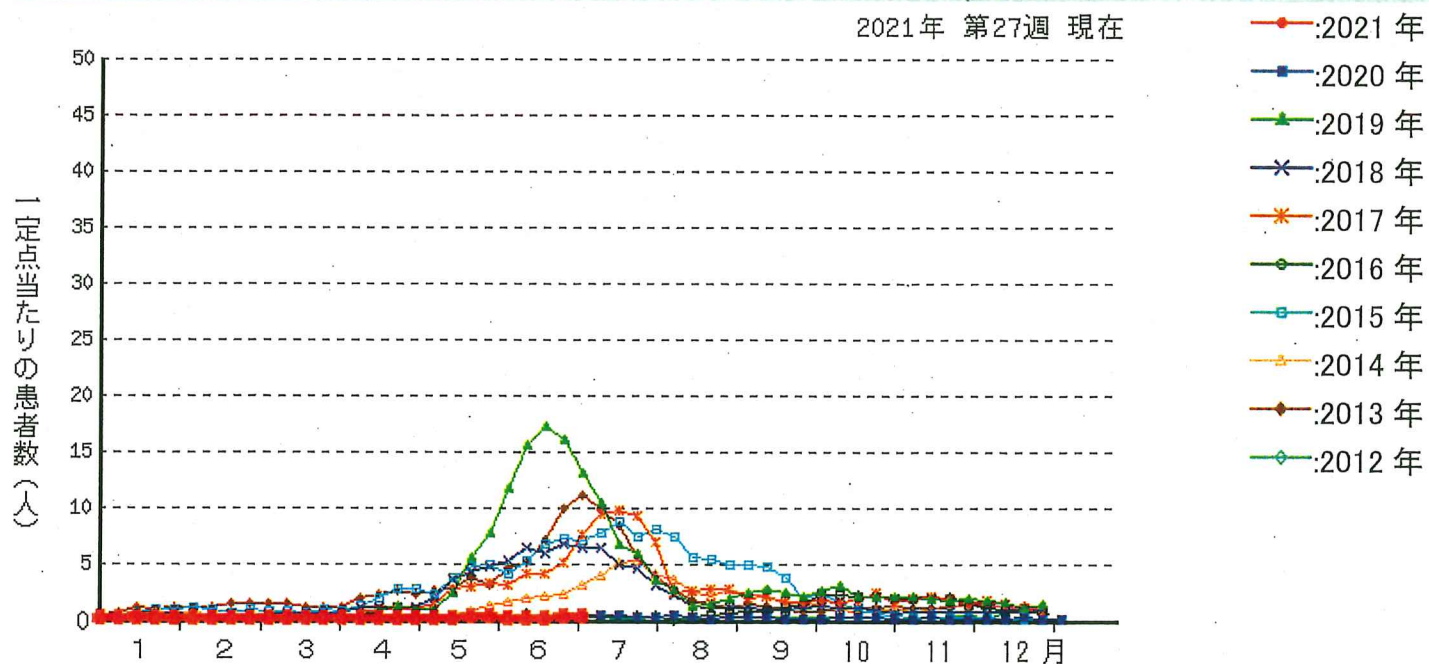
■咽頭結膜熱（福岡県全域）

2021年 第27週 現在

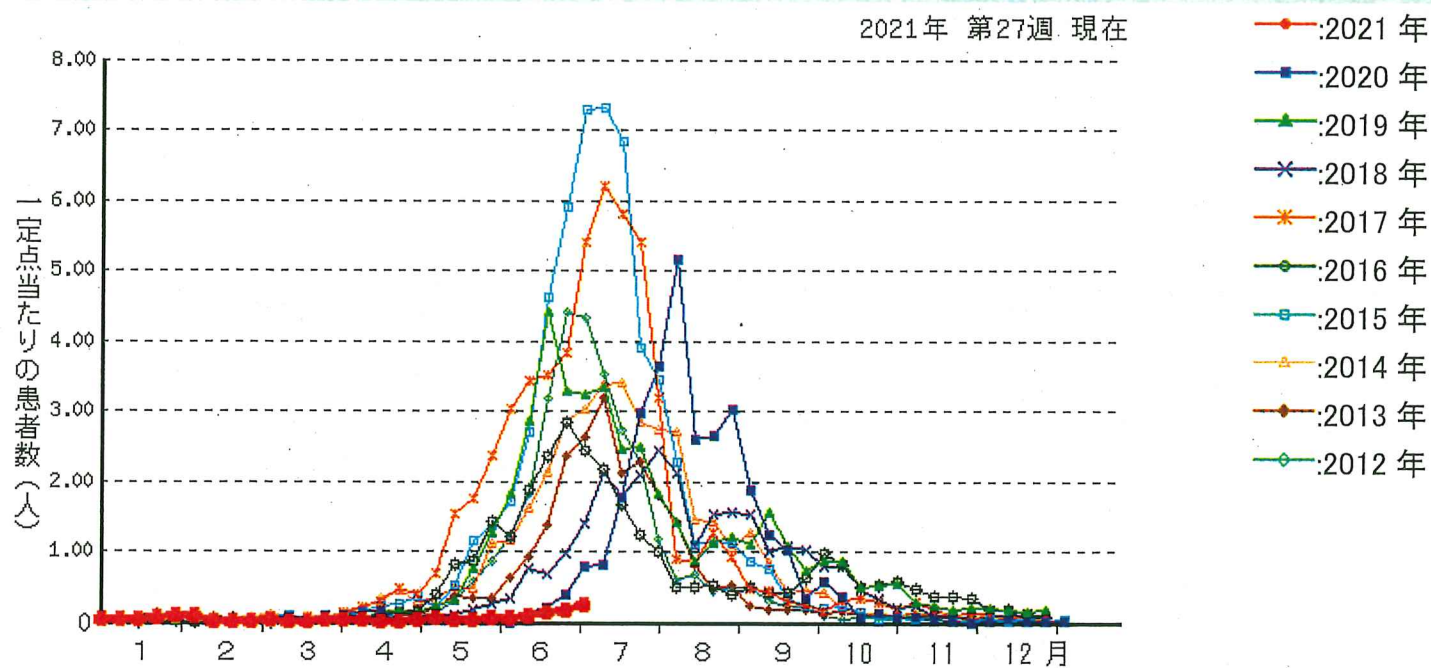


- :2021 年
- :2020 年
- ▲:2019 年
- ×:2018 年
- ✱:2017 年
- ◇:2016 年
- :2015 年
- :2014 年
- ◇:2013 年
- ◇:2012 年

■手足口病 (福岡県全域)



■ヘルパンギーナ (福岡県全域)



2021年7月13日

コミナティ(ファイザー社)または
COVID-19 ワクチンモデルナ(武田薬品)について

新型コロナワクチン接種の お知らせ

接種費用
無料
(全額公費)



未来につながる新型コロナ対策が、ひとつ増えました。

ワクチンをより多くの方に接種していただけるようになりました。

新型コロナワクチンの有効性と安全性

新型コロナワクチンは、発症を予防し、
重症者や死亡者の発生をできる限り減らすことを目的としています。

◎ワクチンの効果：

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)による感染症の予防

メッセンジャーRNAワクチンという種類のワクチンです。ワクチンを受けた人の方が受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症(※)を発症した人が少ないということがわかっています。

(発症予防効果は約95%と報告されています。)



(※) 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)による感染症が発症すると、熱や咳など風邪によく似た症状がみられます。軽症のまま治癒する人も多い一方、症状が重くなると、呼吸困難などの肺炎の症状が悪化し、死に至る場合もあります。

◎ワクチンの安全性：

接種後、数日以内に現れる可能性がある症状

発現割合	症 状	
	コミナティ(ファイザー社)	モデルナ(武田薬品)
50%以上	接種部位の痛み、疲労、頭痛	接種部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉痛
10-50%	筋肉痛、悪寒、関節痛、下痢、発熱、接種部位の腫れ	関節痛、悪寒、吐き気・嘔吐、リンパ節症、発熱、接種部位の腫れ、発赤・紅斑
1-10%	吐き気、嘔吐	接種後7日目以降の接種部位の痛みなど(※)

コミナティ添付文書、COVID-19 ワクチンモデルナ添付文書より

(※) 接種部位の痛みや腫れ、紅斑

- ・接種直後よりも翌日に痛みを感じている方が多いです。
- ・これらの症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。
- ・疲労や関節痛、発熱など、1回目より2回目の方が、頻度が高くなる症状もあります。

○接種後すぐにアナフィラキシーや血管迷走神経反射が起こる可能性があります。詳しくは6ページをご参照ください。
○ごくまれですが、ワクチン接種数日以内に、軽症の心筋炎・心膜炎を発症した例が報告されています(※)。ワクチンを受けた後、数日以内に、胸痛、動悸、息切れ、むくみ等の症状があれば、すぐに医療機関を受診し、ワクチンを受けたことを伝えてください。

(※) 若い方、特に男性において2回目の接種後数日以内に発症する例が多い傾向が見られます。

○コミナティは12歳以上、COVID-19ワクチンモデルナは18歳以上の方が対象です。

ワクチンを受けるのに注意が必要な方など

詳しい情報は、厚生労働省ホームページ
「新型コロナワクチンQ&A『私は接種できますか?』」をご覧ください。



○以下に当てはまる方は、ワクチンを受けることができない場合や、注意が必要な場合があります。
接種に不安がある方は、かかりつけ医等にワクチンを受けて良いかどうかご相談ください。

受けることが できない方	○明らかな発熱がある方や、重い急性疾患にかかっている方 ○ワクチンの成分(※1)に対し、重度の過敏症を起こしたことがある方
注意が必要な方	○現在、何らかの病気で治療中の方 ・心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患、免疫不全で治療中の方 ・血が止まりにくい病気の方や、血をサラサラにする薬(※2)を飲んでいる方 ○以下の様な症状が出たことがある方 ・薬や食品に対する重いアレルギー症状 ・けいれん(ひきつけ)

(※1) ポリエチレングリコールなどが成分として含まれます。ポリエチレングリコールは、大腸内視鏡検査時に下剤として使用する医薬品を始め、様々な医薬品に添加剤として含まれており、化粧品にも含まれていることがあります。その他の成分や、詳細については、厚生労働省ホームページをご参照ください。

(※2) このワクチンは、筋肉内に注射をします。そのため、抗凝固薬(ワーファリン®、ブラザキサ®、イグザレルト®、エリクセス®、リクシアナ®)を内服中の方は、接種後の出血に注意が必要です。

○妊娠中・授乳中・妊娠を計画している方もワクチンを接種することができます。メッセンジャーRNAワクチンが妊娠、胎児、母乳、生殖器に悪影響を及ぼすという報告は現時点ではありません。受けるかお悩みの方は、主治医にもご相談ください。

○新型コロナウイルスに感染したことのある方も、ワクチンを接種することができます。現時点では通常通り、2回接種します。いつから接種できるか不明な場合は、主治医にご確認ください。

ワクチンを受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について、正しい知識を持っていただいた上で、ご本人の意思に基づいて接種をご判断いただきますようお願いいたします。受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。

職場や周りの方などに接種を強制したり、接種を受けていない人に対して差別的な対応をすることはあってはなりません。



ワクチン接種の申し込み方法

■「接種券」を確認する

新型コロナワクチンは、①医療従事者、②高齢者（65歳以上）、③基礎疾患のある方等から順次接種を開始しています。お住まいの市町村から「接種券」が届きますので、同封の案内をよく読んで、接種の準備を進めてください。



■医療機関/接種会場を探す

市町村からの広報やインターネットで、ワクチンを受けることができる医療機関や接種会場を探しましょう。

接種総合案内サイト
「コロナワクチンナビ」

サイトアドレス：
<https://v-sys.mhlw.go.jp>



■予約する

ワクチンを受けたい医療機関／市町村にお問い合わせください。ワクチンの種類は複数あります。あなたがどのワクチンを接種するかは、予約の際にご確認ください。

■当日の持ち物を準備する

- ・接種券（はがさず台紙ごとお持ちください）
- ・本人確認書類
（マイナンバーカード、運転免許証、健康保険証 等）



「接種券」(例)



マイナンバーカード 等

- ・医療機関や接種会場が探せない場合や、ご不明な点がある場合など、お住まいの市町村にお問い合わせをすることができます。
- ・「接種券」は市町村から送付されます。
- ・予約時に接種するワクチンの種類をご確認ください。

◎住民票がある場所(住所地)以外での接種が可能な場合があります。

・入院・入所中の方や、かかりつけ医療機関でワクチンを受けたい方 → 医療機関でご相談ください。

・お住まいが住所地と異なる方(※)

→ コロナワクチンナビでご確認いただくか、実際にお住まいの市町村の相談窓口にお問い合わせください。

・国・都道府県等が設置する大規模接種会場での接種やお勤め先等での職域接種を受けたい方

→ 住所地以外でもワクチンを受けることができます。会場ごとの案内をご確認ください。

(※)「住所地外接種届出済証」が必要です。

基礎疾患を有する方等の接種について

基礎疾患を有する方の範囲

○令和3年度中に65歳に達しない者であって、以下の病気や状態の方で、通院／入院している方

- ・慢性の呼吸器の病気
- ・慢性の心臓病(高血圧を含む。)
- ・慢性の腎臓病
- ・慢性の肝臓病(肝硬変等)
- ・インスリンや飲み薬で治療中の糖尿病又は他の病気を併発している糖尿病
- ・血液の病気(ただし、鉄欠乏性貧血を除く。)
- ・免疫の機能が低下する病気(治療や緩和ケアを受けている悪性腫瘍を含む。)
- ・ステロイドなど、免疫の機能を低下させる治療を受けている
- ・免疫の異常に伴う神経疾患や神経筋疾患
- ・神経疾患や神経筋疾患が原因で身体の機能が衰えた状態(呼吸障害等)
- ・染色体異常
- ・重症心身障害(重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態)
- ・睡眠時無呼吸症候群
- ・重い精神疾患(精神疾患の治療のため入院している、精神障害者保健福祉手帳を所持している、又は自立支援医療(精神通院医療)で「重度かつ継続」に該当する場合)や知的障害(療育手帳を所持している場合)

○基準(BMI30以上)を満たす肥満の方

※BMI=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)

※BMI30の目安:身長170cmで体重87kg、身長160cmで体重77kg

基礎疾患を有する方がワクチンを受けるには

・診断書等の証明書は必要ありません。接種の際に、予診票の質問事項に記載してください。

注:重い精神疾患や知的障害の方の場合は、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療受給者証、療育手帳を提示することもできます。

・基礎疾患を有する方が、かかりつけの医療機関で接種する場合は、住所地以外の市町村でも接種できます。注:この場合、住所地外接種届出済証は不要です。

・かかりつけの医療機関が接種を行っていない場合には、住所地の自治体等で接種できるように住所地の自治体にご相談ください。

12～15歳のお子様の接種について

・コミナティ(ファイザー社ワクチン)は12歳以上のお子様も接種を受けることができます。

・お子様の接種に当たっては、予診票に保護者の署名がなければ受けることができません。

・原則として保護者の同伴が必要ですが、中学生以上のお子様への接種については、接種医療機関(接種会場)が認める場合には、保護者の同伴がなくても、予防接種を受けることができます。

詳しい情報は、厚生労働省ホームページ「く12～15歳のお子様の保護者の方へ」
新型コロナワクチン予防接種についての説明書」をご覧ください。



ワクチンを受ける当日について

◎ワクチンを受ける前の注意点

接種前にご自宅で体温を測定し、明らかな発熱がある場合や体調が悪い場合などは、接種を控え、予約した市町村の窓口や医療機関にご連絡ください。

通常、上腕の三角筋に注射するため

肩を出しやすい服装でお越しください。



◎ワクチンを受けた後の注意点

接種会場にて

ワクチンを受けた後は、15分以上は
接種会場で座って様子をみてください(※)。

(※)過去にアナフィラキシーを含む、重いアレルギー症状を起こしたことがある方や、採血等で気分が悪くなったり、失神等を起こしたことがある方は、30分ほどお待ちください。



接種後、すぐに現れる可能性のある症状について

○アナフィラキシー

- ・薬や食物が体に入ってから、短時間で起こることのあるアレルギー反応です。
- ・じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が、急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下(呼びかけに反応しない)を伴う場合をアナフィラキシーショックと呼びます。
- ・起こることはまれですが、接種後にもアナフィラキシーが起こっても、すぐに対応が可能なよう、ワクチンの接種会場や医療機関では、適切な医療体制を整備しています。

○血管迷走神経反射

- ・ワクチン接種に対する緊張や、強い痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が引いて時に気を失うことがあります。
- ・誰にでも起こる可能性がある体の反応で、通常、横になって休めば自然に回復します。
- ・倒れてケガをしないように、背もたれのある椅子に座って様子をみてください。

・接種後、数日以内に現れる可能性のある症状については、2ページをご参照ください。

ワクチンを受けた後について

ワクチンは通常、同じワクチンを**2回接種**します。

標準の接種間隔

コナチ(ファイザー社)	モデルナ(武田薬品)
通常、3週間の間隔	通常、4週間の間隔

- いずれのワクチンも、標準の接種間隔を超えても、2回目の接種を受けることができますので、なるべく早く2回目の接種を受けましょう。米国やEUの一部の国で、1回目から6週間後までに2回目を接種することを目安としています。
- 2回目の予約方法については、1回目に受けた医療機関・接種会場や市町村の案内をご確認ください。
- 接種後に現れた症状の種類によっては、2回目の接種は控えた方がよいこともあります。接種後に気になる症状が現れた方は、2回目を受けるかどうかも含めて、ワクチンを受けた医療機関やかかりつけ医にご相談ください。

ワクチンを受けた後も

マスクの着用など、感染予防対策の継続をお願いします。

ワクチンを受けた方は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防できると期待されていますが、他の方への感染をどの程度予防できるかはまだ十分には分かっていません。また、ワクチン接種が徐々に進んでいく段階では、すぐに多くの方が予防接種を受けられるわけではなく、ワクチンを受けた方も受けていない方も、共に社会生活を営んでいくことになります。

このため、皆さまに感染予防対策を継続していただくようお願いします。

具体例)



密集場所



密接場面



密閉空間

「3つの密(密集・密接・密閉)」の
回避



マスクの
着用



石けんによる
手洗い



手指消毒用
アルコールによる
消毒の励行

ご相談先など

◎新型コロナワクチンに関する相談先

ワクチン接種後に 体に異常があるとき	➡ ワクチンを受けた医療機関やかかりつけ医、 市町村や都道府県の窓口
ワクチン接種全般に 関するお問い合わせ	➡ 市町村の窓口

◎予防接種健康被害救済制度について

予防接種では健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。

新型コロナワクチンの予防接種によって健康被害が生じた場合にも、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金の給付など）が受けられます。

申請に必要となる手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

新型コロナワクチンに便乗した詐欺にご注意ください！

新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種のために必要としたり、金銭や個人情報をだましとろうとする電話に関する相談が消費生活センターへ寄せられています。

**市町村等が、ワクチン接種のために
金銭や個人情報を電話・メールで求め
ることはありません。**

困ったときは一人で悩まず、消費者ホットライン188（局番なし）にご相談ください。



新型コロナワクチンの詳しい情報については、厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。



接種費用 **無料**
(全額公費)

2021年7月13日

～12歳以上のお子様と保護者の方へ～

新型コロナワクチン接種についてのお知らせ

12歳以上の人は新型コロナワクチンを受けることができます。
保護者の方とこの説明書を読んで、ワクチンを受けるか相談しましょう。

新型コロナワクチンは何のために受けるの？

新型コロナワクチンを受けることで、新型コロナにかかりにくくなります。

ワクチンを受けると、体の中で新型コロナとたたかう仕組み(免疫)ができて、実際にウイルスが体に入ってきたときに、すぐたかえるように準備します。ワクチンを受けることで、新型コロナにかかる人が減り、社会生活の制限が減っていくことも期待されています。



◎ワクチンを受ける日に注意すること



37.5℃以上の熱があるときや、体調が悪いときは、ワクチンを受けられないので、そのことをお母さんやお父さんに伝えましょう。



ワクチンは肩の近くに注射します。
かた肩の出しやすい服で、受けに行きましょう。



ワクチンを受けた後、**15分以上はすわって様子をみましょう。**(30分様子をみる場合もあります。)



当日はお風呂に入るなど、いつも通りの生活をするのは問題ありませんが、**激しい運動はやめましょう。**

このワクチンは間隔をあけて、合計2回接種します。

大切！
守ってほしい
こと

ワクチンを早く受けている人や、ワクチンを受けられない理由がある人など、様々な人がいます。ワクチンを受けている、受けていないといった理由で周りの人を悪く言ったり、いじめたりすることは、絶対にあってはなりません。

ワクチンを受けた後には、次のような症状が出ることがあります。



他のワクチンに比べて、発熱や痛みなどが出やすいですが、
2～3日で自然と良くなることがわかっています。
症状が出たら、あわてずにきちんと周りの大人に知らせましょう。

（ すぐに起こることがある症状 ）

● アナフィラキシー

重いアレルギー反応で、じんましんや息苦しさなどの症状が出ます。
からだがかゆくなったり、咳が出たりしたときは、すぐに周りの大人に伝えましょう。

● 血管迷走神経反射

ワクチンを受けることに対する緊張や痛みをきっかけに、血の気が引いて、
立ちくらみがしたり、気を失ったりすることがあります。横になって休めば、自然に治ります。
たおれてケガをしないように背もたれのあるイスですわって休みましょう。



15～30分は
すわって!

（ 数日以内に起こることがある症状 ）

- ・注射を受けたすぐ後よりも、受けた日の夜や次の日に注射した部分の痛みを感じる人が多いです。
- ・疲れた感じや発熱などは、1回目より2回目にワクチンを受けたときの方が多くの人に見られます。
- ・注射を受けて数日以内に、胸のあたりの痛み等が出た場合は、周りの大人に伝えましょう。

※（保護者の方へ）ワクチン接種後に、ごくまれに心筋炎が報告されています。

症状が出た人の割合	症 状
50%以上	注射した部分の痛み、疲れた感じ、頭痛
10～50%	筋肉痛、寒気、関節痛、発熱
1～10%	注射した部分のはれ・赤み、げり、嘔吐

コナティ®添付文書より改編

ワクチンを受けた人もいれば、受けていない人もいます。ワクチンを受けた後も、
今までのように、しっかり手洗い・消毒、マスクなどの感染予防対策を続けましょう。



みっしゅう
密集した場所



みっせつ
密接した場面



みっぺい
密閉された空間



マスクの着用



石けんで手洗い



手指の消毒

新型コロナワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報
については、厚生労働省のホームページをご覧ください。

新型コロナワクチン

検 索

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。



新型コロナワクチンを受けた後の注意点

ワクチンを受けた後は
**15分以上は接種会場で
座って様子をみてください。**※。

お待ちの間も、感染対策をお願いします。

(マスクをする、隣の人と距離をとる、会話を控えるなど)

※過去にアナフィラキシーを含む、重いアレルギー症状を起こしたことがある方や、採血等で気分が悪くなったり、失神等を起こしたことがある方は、30分ほどお待ちください。



接種日当日

■ 接種後、すぐに現れる可能性のある症状について

アナフィラキシー	- 薬や食物が体に入ってから、短時間で起こることのあるアレルギー反応です。 - じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が、急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下(呼びかけに反応しない)を伴う場合をアナフィラキシーショックと呼びます。 - 起こることは極めてまれですが、接種後にもアナフィラキシーが起こっても、すぐに対応が可能なよう、ワクチンの接種会場や医療機関では、医薬品などの準備をしています。
血管迷走神経反射	- ワクチン接種に対する緊張や、強い痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が引いて時に気を失うことがあります。 - 誰にでも起こる可能性がある体の反応で、通常、横になって休めば自然に回復します。 - 倒れてケガをしないように、背もたれのある椅子に座って様子をみてください。

ワクチンを受けた日の 注意点

- 通常の生活は問題ありませんが、激しい運動や過度の飲酒等は控えてください。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、注射した部分は強くこすらないようにしましょう。



数日

■ 接種後、数日以内に現れる可能性のある症状について

発現割合	症 状
50%以上	接種部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉痛
10-50%	関節痛、悪寒、吐き気・嘔吐、リンパ節症、発熱、接種部位の腫れ、発赤・紅斑
1-10%	接種後7日目以降の接種部位の痛みなど(※)

(※) 接種部位の痛みや腫れ、紅斑

COVID-19 ワクチンモデルナ(武田薬品)添付文書より

- ・接種直後よりも翌日に痛みを感じている方が多いです。
- ・これらの症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。
- ・疲労や関節痛、発熱など、1回目より2回目の方が、頻度が高くなる症状もあります。

○ごくまれですが、軽症の心筋炎・心膜炎を発症した例が報告されています。

- ・ワクチンを受けた後、数日以内に、胸痛、動悸、息切れ、むくみ等の症状があれば、すぐに医療機関を受診し、ワクチンを受けたことを伝えてください。
- ・報告されているものでは、若い方、特に男性において2回目の接種後数日以内に発症する例が多い傾向が見られます。
- ・心筋炎と診断された場合には、一般的には入院が必要となりますが、多くは安静によって自然回復するとされています。

◎新型コロナワクチンに関する相談先

ワクチン接種後に、体に異常があるとき	→ ワクチンを受けた医療機関やかかりつけ医、市町村や都道府県の窓口
ワクチン接種全般に関するお問い合わせ	→ 市町村の窓口

◎予防接種健康被害救済制度について

予防接種では健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。

新型コロナワクチンの予防接種によって健康被害が生じた場合にも、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金の給付など）が受けられます※。

申請に必要となる手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

※その健康被害が、接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、市町村により給付が行われます。認定にあたっては、予防接種・感染症・医療・法律の専門家により構成される国の疾病・障害認定審査会により、因果関係を判断する審査が行われます。

ワクチンは2回接種します

●1回目の接種の方へ

- ・ワクチンの効果を十分得るために、同じワクチンを一定の間隔を空けて2回受ける必要があります。
 - ・2回目の接種は、本日（1回目）から通常4週間空けて、できるだけお早めに受けてください。（※）
 - ・2回目の予約方法については、1回目に受けた医療機関・接種会場や市町村の案内をご確認ください。
 - ・接種後に現れた症状の種類によっては、2回目の接種を受けない方がよいこともあります。
- 接種後に気になる症状が現れた方は、2回目を受けるかどうかも含めて、ワクチンを受けた医療機関やかかりつけ医にご相談ください。

（※）米国やEUの一部の国で、1回目から6週間後までに2回目を接種することを目安としています。

●2回目の接種の方へ

- ・ワクチン接種はこれで終了になります。
- ・接種後は、1回目と同様に体調に変化がないか注意してください。



ワクチンを受けた後も、マスクの着用など、感染予防対策の継続をお願いします。

ワクチンを受けた方は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防できると期待されていますが、他の方への感染をどの程度予防できるかはまだ十分にはわかっていません。また、ワクチン接種が徐々に進んでいく段階では、すぐに多くの方が予防接種を受けられるわけではなく、ワクチンを受けた方も受けていない方も、共に社会生活を営んでいくことになります。

このため、皆さまに感染予防対策を継続していただくようお願いします。

具体的には、「3つの密（密集・密接・密閉）」の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒の励行などをお願いします。

新型コロナワクチンの詳しい情報については、厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。



新型コロナワクチンを受けた後の注意点

ワクチンを受けた後は
**15分以上は接種会場で
座って様子をみてください。**※

お待ちの間も、感染対策をお願いします。

(マスクをする、隣の人と距離をとる、会話を控えるなど)

※過去にアナフィラキシーを含む、重いアレルギー症状を起こしたことがある方や、採血等で
気分が悪くなったり、失神等を起こしたことがある方は、30分ほどお待ちください。



接種日当日

■ 接種後、すぐに現れる可能性のある症状について

アナフィラキシー	・薬や食物が体に入ってから、短時間で起こることのあるアレルギー反応です。 ・じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が、急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下(呼びかけに反応しない)を伴う場合をアナフィラキシーショックと呼びます。 ・起こることは極めてまれですが、接種後にもアナフィラキシーが起こっても、すぐに対応が可能で、ワクチンの接種会場や医療機関では、医薬品などの準備をしています。
血管迷走神経反射	・ワクチン接種に対する緊張や、強い痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が引いて時に気を失うことがあります。 ・誰にでも起こる可能性がある体の反応で、通常、横になって休めば自然に回復します。 ・倒れてケガをしないように、背もたれのある椅子に座って様子をみてください。

ワクチンを受けた日
の注意点

- 通常の生活は問題ありませんが、激しい運動や過度の飲酒等は控えてください。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、注射した部分は強くこすらないようにしましょう。



数日

■ 接種後、数日以内に現れる可能性のある症状について

発現割合	症 状
50%以上	接種部位の痛み、疲労、頭痛
10-50%	筋肉痛、悪寒、関節痛、下痢、発熱、接種部位の腫れ
1-10%	吐き気、嘔吐

- ・接種直後よりも翌日に痛みを感じている方が多いです。
- ・これらの症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。
- ・疲労や関節痛、発熱など、1回目より2回目の方が、頻度が高くなる症状もあります。

コミナティ添付文書より改編

○ごくまれですが、軽症の心筋炎・心膜炎を発症した例が報告されています。

- ・ワクチンを受けた後、数日以内に、胸痛、動悸、息切れ、むくみ等の症状があれば、すぐに医療機関を受診し、ワクチンを受けたことを伝えてください。
- ・報告されているものでは、若い方、特に男性において2回目の接種後数日以内に発症する例が多い傾向が見られます。
- ・心筋炎と診断された場合には、一般的には入院が必要となりますが、多くは安静によって自然回復するとされています。

◎新型コロナワクチンに関する相談先

ワクチン接種後に、体に異常があるとき	→ ワクチンを受けた医療機関やかかりつけ医、市町村や都道府県の窓口
ワクチン接種全般に関するお問い合わせ	→ 市町村の窓口

◎予防接種健康被害救済制度について

予防接種では健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。

新型コロナワクチンの予防接種によって健康被害が生じた場合にも、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金の給付など）が受けられます※。

申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

※その健康被害が、接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、市町村により給付が行われます。認定にあたっては、予防接種・感染症・医療・法律の専門家により構成される国の疾病・障害認定審査会により、因果関係を判断する審査が行われます。

ワクチンは2回接種します

●1回目の接種の方へ

- ・ワクチンの効果を十分得るために、同じワクチンを一定の間隔を空けて2回受ける必要があります。
- ・2回目の接種は、本日（1回目）から通常3週間空けて、できるだけお早めに受けてください。（※）
- ・2回目の予約方法については、1回目に受けた医療機関や市町村の案内をご確認ください。
- ・接種後に現れた症状の種類によっては、2回目の接種を受けない方がよいこともあります。接種後に気になる症状が現れた方は、2回目を受けるかどうかも含めて、ワクチンを受けた医療機関やかかりつけ医にご相談ください。

（※）米国やEUの一部の国で、1回目から6週間後までに2回目を接種することを目安としています。

●2回目の接種の方へ

- ・ワクチン接種はこれで終了になります。
- ・接種後は、1回目と同様に体調に変化がないか注意してください。



ワクチンを受けた後も、マスクの着用など、感染予防対策の継続をお願いします。

ワクチンを受けた方は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防できると期待されていますが、他の方への感染をどの程度予防できるかはまだわかっていません。また、ワクチン接種が徐々に進んでいく段階では、すぐに多くの方が予防接種を受けられるわけではなく、ワクチンを受けた方も受けていない方も、共に社会生活を営んでいくことになります。

このため、皆さまに感染予防対策を継続していただくようお願いします。

具体的には、「3つの密（密集・密接・密閉）」の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒の励行などをお願いします。

新型コロナワクチンの詳しい情報については、厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。



2021 年 6 月 16 日

新型コロナワクチン ～子どもならびに子どもに接する成人への接種に対する考え方～

公益社団法人日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会

以下は現時点での情報に基づくもので、引き続き新型コロナワクチンに関する情報を収集して解析を行い、内容を変更することがあります。

要旨

- ・子どもを新型コロナウイルス感染から守るためには、周囲の成人（子どもに関わる業務従事者等）への新型コロナワクチン（以下、ワクチン）接種が重要です。
- ・重篤な基礎疾患のある子どもへのワクチン接種により、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の重症化を防ぐことが期待されます。
- ・健康な子どもへのワクチン接種には、メリット（感染拡大予防等）とデメリット（副反応等）を本人と養育者が十分理解し、接種前・中・後にきめ細やかな対応が必要です。

はじめに

国外での小児(12～15 歳)を対象とした接種経験等¹⁾をもとに、わが国でも 2021 年 5 月 31 日に 12 歳以上の小児へのワクチン接種が承認され、同年 6 月 1 日から適用²⁾となりました³⁾。

国内では小児に対するワクチン接種後の副反応に関する情報はありません。一方で、国内の医療関係者約 2 万人へのワクチン接種後の重点的調査（コホート調査）から、接種部位の疼痛等の出現頻度が高く、若年者の方が高齢者より接種後に発熱、全身倦怠感、頭痛等の全身反応を認める割合が高いことが明らかになっています³⁾。

注) 1: 2021 年 6 月 1 日現在、12 歳以上の小児への接種が承認されているワクチンはファイザー社製のみで、12 歳未満の子どもに接種可能なワクチンはありません。武田/モデルナ社製ワクチンの接種年齢は 18 歳以上です。

そこで、子どもならびに子どもに接する成人へのワクチン接種に対する考え方を示します。

1. 子どもに関わる業務従事者等へのワクチン接種が重要であると考えます

子どもへの感染源の多くは周りにいる成人であることから⁴⁾、子どもを感染から守るためには、周囲の成人が免疫を獲得することが重要と考えます。16 歳以上の約 4 万人を対象とした国外の研究では、2 回接種後のワクチン効果は 95%（95% 信頼区間、90.3～97.6）で⁵⁾、発症を予防する高い効果が報告されました⁶⁾。また、英国の研究結果から無症候性の感染を防ぐことも明らかになっています⁶⁾ので、ワクチン接種により周りの成人から子どもへの感染が予防できる可能性が期待されます。

特に、重症化が懸念される医療的ケア児等に関わる業務従事者等^{注)3}、重篤な基礎疾患のある子どもに関わる業務従事者等^{注)4}および健康な子どもに関わる業務従事者等^{注)5}は、職種・勤務形態を問わずワクチンを接種することが重要と考えます。

注)2：ワクチンを2回接種すると95%の人が発症しないという数字ではありません。ワクチン2回接種後に発症した人が約2万人のうち8人、プラセボ（生理食塩水）接種後に発症した人が約2万人のうち162人という数字から計算されたものです。

注)3：障害児入所施設（医療型を含む）、児童発達支援センター（医療型含む）、児童発達支援、居宅訪問型児童発達支援、障害児相談支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、特別支援学校放課後等支援事業などの事業を実施している施設・団体の職員、在宅ケアを行なっている家族（12歳以上）

注)4：院内学級関係職員、医療機関におけるボランティア等

注)5：保育所（認可・認可外をとわず）、幼稚園、認定こども園、小・中学校、特別支援学校（高等部を含む）、留守家庭子ども会、学習塾、児童相談所一時保護所等の職員

2. 子どもへのワクチン接種の考え方

1) 重篤な基礎疾患のある子どもへの接種

国外では、神経疾患、慢性呼吸器疾患および免疫不全症を有する子どもの新型コロナウイルス感染症において、COVID-19の重症化が報告されています⁷⁾。国内においても接種対象年齢となる基礎疾患⁸⁾のある子どもの重症化が危惧されますので、ワクチン接種がそれを防ぐことが期待されます。

しかし、高齢者と比べて思春期の子ども達、若年成人では接種部位の疼痛出現頻度は約90%と高く^{1),3)}、接種後、特に2回目接種後に発熱、全身倦怠感、頭痛等の全身反応が起こる頻度も高いことが示されています（例：37.5℃以上の発熱は20代で約50%、50代で約30%、70代で約10%）³⁾。以上のことから、ワクチン接種を検討する際には本人および養育者に十分な接種前の説明と接種後の健康観察が必要であると考えます。

基礎疾患を有する子どもへのワクチン接種については、本人の健康状況をよく把握している主治医と養育者との間で、接種後の体調管理等を事前に相談することが望ましいと考えます。

2) 健康な子どもへの接種

12歳以上の健康な子どもへのワクチン接種は意義があると考えています。COVID-19予防対策の影響で子どもたちの生活は様々な制限を受け、子どもたちの心身の健康に大きな影響を与え続けています。小児COVID-19患者の多くは軽症ですが⁴⁾、まれながら重症化することがありますし⁷⁾、同居する高齢者の方がいる場合には感染を広げる可能性もあります。なお、子どもがワクチン接種をした場合、その後のマスク着用などの感染予防策の解除については、今後の流行状況などを踏まえて慎重に考える必要があります。

子どもへのワクチン接種は、先行する成人への接種状況を踏まえて慎重に実施されることが望ましく、また、接種にあたってはメリットとデメリットを本人と養育者が十分に理解していること、接種前・中・後におけるきめ細かな対応を行うことが前提であり、できれば個別接種が望ましいと考えます。やむを得ず集団接種を実施する際には、本人と養育者に対

する個別の説明をしっかりと行う配慮が望まれます。ワクチン接種を希望しない子どもと養育者に対しては、特別扱いされないような十分な配慮が必要と考えます。

小児 COVID-19 が比較的軽症である一方で、国外での小児を対象とした接種経験等では、ワクチン接種後の発熱や接種部位の疼痛等の副反応出現頻度が比較的高いことが報告されています¹⁾。十分な接種前の説明がないまま副反応が発生することがないようにすることが重要です。

最近イスラエルや米国などから、若年男性におけるワクチン接種後の心筋炎の発症が報告されています^{9,10)}。ワクチンとの因果関係やその臨床像・重症度についても、まだ十分な情報は得られていませんが、学会として今後も情報を収集し発信していきます。当委員会では、小児の COVID-19 に関する論文を抄訳して学会ホームページ上で発表¹¹⁾しています。今後も新たな情報をもとに更新していきます。

参考文献

1. Frenck Jr RW, Klein NP, Kitchin N, et al.: Safety, Immunogenicity, and Efficacy of the BNT162b2 Covid-19 Vaccine in Adolescents. *N Engl J Med*. 2021 in press. doi: 10.1056/NEJMoa2107456.
2. 厚生労働大臣：「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施について（指示）」の一部改正について．厚生労働省発健 0531 第 4 号令和 3 年 5 月 31 日。
<https://www.mhlw.go.jp/content/000786653.pdf> (2021 年 6 月 9 日アクセス)
3. 伊藤 澄信、他：令和 2 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）新型コロナワクチンの投与開始初期の重点的調査（コホート調査）健康観察日誌集計の中間報告（6）．第 60 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和 3 年度第 8 回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催：2021 年 5 月 26 日）資料。https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_18848.html (2021 年 6 月 9 日アクセス)
4. 日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会：「データベースを用いた国内発症小児 Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) 症例の臨床経過に関する検討」への参加のお願い。
http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=344 (2021 年 6 月 9 日アクセス)
5. Polack FP, Thomas SJ, Kitchin N, et al.: Safety and Efficacy of the BNT162b2 mRNA Covid-19 Vaccine. *N Engl J Med*. 383(27):2603-2615, 2020.
6. Hall VJ, Foulkes S, Saei A et al.: COVID-19 vaccine coverage in health-care workers in England and effectiveness of BNT162b2 mRNA vaccine against infection (SIREN): a prospective, multicentre, cohort study. *Lancet* 2021;397(10286) : 1725-35, 2021.
7. Kainth MK, Goenka PK, Williamson KA, et al.: Early Experience of COVID-19 in a US Children's Hospital. *Pediatrics*. 146(4):e2020003186, 2020.
8. 厚生労働省：第 43 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会（2020 年 12 月 25 日開催）資料（日本小児科学会提出文書を含む）。
<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/000711250.pdf> (2021 年 6 月 9 日アクセス)
9. Vogel G, Couzin-Frankel J : Israel reports link between rare cases of heart inflammation and COVID-19 vaccination in young men. <https://www.sciencemag.org/news/2021/06/israel-reports-link-between-rare-cases-heart-inflammation-and-covid-19-vaccination> (2021 年 6 月 11 日アクセス)
10. American Academy of Pediatrics: CDC confirms 226 cases of myocarditis after COVID-19 vaccination in people 30 and under. <https://www.aappublications.org/news/2021/06/10/covid-vaccine-myocarditis-rates-061021> (2021 年 6 月 12 日アクセス)
11. 日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会：小児の新型コロナウイルス感染症の診療に関連した論文. http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=334 (2021 年 6 月 9 日アクセス)

●一般接種（高齢者含む）について

- ・ワクチン接種記録システム（VRS）への報告を、接種日ごとに集計。
（医療従事者等として集計する接種回数を除く。）
- ・土日祝日における報告についても、接種日ごとに集計。
- ・最新の集計日までに報告された接種回数の合計を総接種回数として公表。
（例えば、原則、月曜日は前日の日曜日時点で報告された総接種回数を、火曜日は前日の月曜日時点で報告された総接種回数を公表。）
- ・接種日より後に報告された場合、遡って当該接種日の接種回数に計上するため、当該接種日の接種回数が後日増加することがある。
- ・増分は、直近の公表の総接種回数との差。
（例えば、原則、月曜日における増分は、当日公表した総接種回数（前日の日曜日時点）から前週金曜日に公表した総接種回数（前週木曜日時点）を引いたものであり、その間の金曜日及び土曜日に報告された接種回数も含まれている。また、原則、火曜日における増分は、当日公表した総接種回数（前日の月曜日時点）から前日の月曜日に公表した総接種回数（その前日の日曜日時点）を引いたものである。）

●医療従事者等について

- ・ワクチン接種円滑化システム（V-SYS）への報告を、報告日（17:00時点）ごとに集計。
（一般接種（高齢者含む）として集計する接種回数を除く。）
- ・土日祝日における報告については、次の平日における報告に合わせて集計。
- ・最新の集計日までに報告された接種回数の合計を総接種回数として公表。
（例えば、原則、月曜日は前週金曜日時点で報告された総接種回数を、火曜日は前日の月曜日時点で報告された総接種回数を公表。）
- ・増分は、直近の公表の総接種回数との差。
（例えば、原則、月曜日における増分は、当日公表した総接種回数（前週金曜日時点）から前週金曜日に公表した総接種回数（前週木曜日時点）を引いたものである。また、原則、火曜日における増分は、当日公表した総接種回数（前日の月曜日時点）から前日の月曜日に公表した総接種回数（前週金曜日時点）を引いたものであり、その間の土曜日及び日曜日に報告された接種回数も含まれている。）

●接種率の計算について

- ・「接種率」は、接種回数を分子とし、分母については、「全体」に関しては、全人口（127,138,033人）を、「高齢者」に関しては、65歳以上の人口（35,486,339人）を用いている（データは令和2年1月1日現在の住民基本台帳から）。

これまでのワクチン総接種回数（医療従事者等、都道府県別）

（7月19日公表時点）

都道府県名	接種回数 (7月16日まで)	内 1 回目	内 2 回目
合計	11,848,437	6,368,336	5,480,101
01 北海道	600,054	322,374	277,680
02 青森県	125,082	66,819	58,263
03 岩手県	132,559	71,386	61,173
04 宮城県	262,923	145,638	117,285
05 秋田県	104,130	56,343	47,787
06 山形県	110,660	58,503	52,157
07 福島県	196,067	103,523	92,544
08 茨城県	264,820	142,629	122,191
09 栃木県	157,040	83,586	73,454
10 群馬県	186,165	100,666	85,499
11 埼玉県	567,194	306,550	260,644
12 千葉県	496,056	267,056	229,000
13 東京都	1,122,840	600,150	522,690
14 神奈川県	717,260	384,341	332,919
15 新潟県	210,817	118,113	92,704
16 富山県	105,877	55,662	50,215
17 石川県	123,992	65,653	58,339
18 福井県	91,749	48,481	43,268
19 山梨県	80,174	43,821	36,353
20 長野県	191,229	103,044	88,185
21 岐阜県	197,084	102,967	94,117
22 静岡県	300,684	161,594	139,090
23 愛知県	646,720	360,988	285,732
24 三重県	166,200	87,688	78,512
25 滋賀県	116,374	61,947	54,427
26 京都府	254,597	139,232	115,365
27 大阪府	749,993	402,721	347,272
28 兵庫県	490,893	261,788	229,105
29 奈良県	136,086	71,475	64,611
30 和歌山県	99,718	53,230	46,488
31 鳥取県	63,006	33,094	29,912
32 島根県	73,911	40,092	33,819
33 岡山県	236,783	131,852	104,931
34 広島県	288,707	154,792	133,915
35 山口県	176,647	98,012	78,635
36 徳島県	96,713	50,925	45,788
37 香川県	100,981	53,526	47,455
38 愛媛県	154,941	80,669	74,272
39 高知県	83,662	43,529	40,133
40 福岡県	500,356	266,090	234,266
41 佐賀県	112,765	59,666	53,099
42 長崎県	148,646	78,610	70,036
43 熊本県	232,280	120,233	112,047
44 大分県	133,558	71,817	61,741
45 宮崎県	113,111	60,197	52,914
46 鹿児島県	199,881	107,582	92,299
47 沖縄県	127,452	69,682	57,770

注：ワクチン接種円滑化システム（V-SYS）への報告（17時時点）を

接種実施機関所在地の都道府県別に集計（高齢者、基礎疾患保有者、その他を除く）。

4月9日までの接種実績は厚生労働省の「新型コロナワクチン接種実績」のページをご覧ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_sesshujisseki.html

これまでのワクチン総接種回数（都道府県別）

（7月19日公表時点）

都道府県名	接種回数	内 1 回目	内 2 回目
合計	70,051,205	42,640,078	27,411,127
01 北海道	2,927,958	1,815,720	1,112,238
02 青森県	755,905	468,068	287,837
03 岩手県	695,678	426,226	269,452
04 宮城県	1,343,428	795,671	547,757
05 秋田県	639,550	402,701	236,849
06 山形県	791,125	466,356	324,769
07 福島県	1,157,180	688,544	468,636
08 茨城県	1,532,567	956,525	576,042
09 栃木県	927,156	570,731	356,425
10 群馬県	1,196,783	746,022	450,761
11 埼玉県	3,517,456	2,160,961	1,356,495
12 千葉県	3,112,711	1,911,622	1,201,089
13 東京都	6,689,841	4,179,592	2,510,249
14 神奈川県	4,550,001	2,795,645	1,754,356
15 新潟県	1,426,532	857,017	569,515
16 富山県	651,019	391,115	259,904
17 石川県	740,268	442,123	298,145
18 福井県	504,906	307,222	197,684
19 山梨県	482,986	284,815	198,171
20 長野県	1,240,342	747,495	492,847
21 岐阜県	1,308,079	763,200	544,879
22 静岡県	1,880,505	1,162,688	717,817
23 愛知県	3,908,855	2,322,202	1,586,653
24 三重県	1,060,921	632,416	428,505
25 滋賀県	752,679	458,077	294,602
26 京都府	1,458,230	867,296	590,934
27 大阪府	4,483,811	2,766,017	1,717,794
28 兵庫県	3,168,785	1,949,142	1,219,643
29 奈良県	824,355	492,784	331,571
30 和歌山県	683,560	405,767	277,793
31 鳥取県	362,287	215,348	146,939
32 島根県	426,664	253,169	173,495
33 岡山県	1,235,641	751,780	483,861
34 広島県	1,560,360	942,152	618,208
35 山口県	1,018,256	607,868	410,388
36 徳島県	499,846	293,531	206,315
37 香川県	575,036	335,445	239,591
38 愛媛県	834,576	504,991	329,585
39 高知県	495,635	292,985	202,650
40 福岡県	2,869,963	1,755,519	1,114,444
41 佐賀県	598,748	349,510	249,238
42 長崎県	865,469	521,209	344,260
43 熊本県	1,209,128	723,873	485,255
44 大分県	738,875	445,010	293,865
45 宮崎県	693,134	410,519	282,615
46 鹿児島県	1,005,227	599,338	405,889
47 沖縄県	649,188	404,071	245,117

注：一般接種（高齢者含む）はワクチン接種記録システム（VRS）への報告と、

医療従事者等はワクチン接種円滑化システム（V-SYS）への報告を、公表日で集計したもの。

注：公表日におけるデータの計上方法等の注釈については、以下を参照（<https://www.kantei.go.jp/jp/content/000082948.pdf>）